



北海道ファミリーハウス
—NPO法人—
北海道ファミリーハウス通信

2023年6月30日発行/No.29
発行：NPO法人北海道ファミリーハウス
責任者：理事・事務局長 高橋 誠
060-0042 札幌市中央区大通西15丁目
2-4 パークアベニュー札幌602号室
TEL：080-9507-2389



特定非営利活動法人
北海道ファミリーハウス
理事長 南谷 晴之

第十六回 通常総会ひらく

五月二十七日(土)

■ごあいさつ

皆様には日頃からファミリーハウス活動に対しご理解、ご支援を賜りまして心からお礼申し上げます。

これまでは、新型コロナウイルス対策により書面決済を行ってまいりましたが、第十六回通常総会は四年ぶりに対面による開催となりました。

この間、スタッフ並びに利用者様におかれましては感染対策を徹底していただいたおかげで、感染が広がることがなく今日を迎えることができましたことを改めて感謝申し上げます。

また、たくさんの寄付・物品寄贈をしていただきました皆様にも重ねてお礼申し上げます。

この一年間の活動を振り

返りながら、頂戴したご意見などを次年度に生かして参りたいと考えております。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。



▲第16回通常総会

■第十六回通常総会

五月二十七日(土)に「第十六回通常総会」を開催しました。

総会では、二〇二二年度事業報告、収支決算および監査報告を行い、報告どおり承認されました。引き続き、二〇二三年度の事業計画、予算・役員について審議の結果、提案どおり決定されました。

一. 特定非営利活動に係る事業

(一) 援助及び支援活動

- ①入院して治療を受けている子どもたちの笑顔作りの活動として、今年度から三病院の小児科へクリスマスプレゼントを寄贈しました。
- 二〇二二年一月～一二

- 月のしろくまハウス利用者、関連団体他へXmasポストカードを発送しました。
- ②そらぶちキッズキャンプの賛助会員として支援をしました。

(二) ファミリーハウスの設置及び運営

- ①しろくまハウス二室に、エアコンを設置しました。
- ②医療関係機関、自治体などに配布していた滞在施設情報「2022版ガイドブック」(二五〇冊)をホームページからダウンロードできる形に切り替えました。

(三) 道民に理解を求める広報活動

- ①ホームページ及びSNSを活用し活動内容を発信しました。
- ②パンフレットを活用し、活動内容のPRを行いました。
- ③「北海道ファミリーハウス通信」(No.28)を発行(一八〇〇部)し、配布しました。

(四) その他

- ①札幌市社会福祉協議会賛助会員に登録しました。
- ②札幌市赤い羽根共同募金街頭募金活動にボランティア二名で参加しました。

一. 事業実施の方針

昨年に引き続き、入院治療を受ける患者とその家族(小児がん等難病患者をはじめとする入院患者家族)を経済的ならびに精神的に支援する活動を行っていきます。

二. 特定非営利活動事業

(一) 援助及び支援活動

入院治療を受ける患者と、その家族(小児がん等難病患者をはじめとする入院患者家族)を支援するために、小児専用直営施設「しろくまハウス」とファミリーハウス(賃貸住宅や宿泊施設等)の、ニーズに合わせ円滑な利用が図れるような活動を行っていきます。

○「しろくまハウス」の利用希望者の増加により、増室に向けて検討します。

二〇二三年度 事業・活動計画

2022年度「特定非営利活動に係る事業」会計収支報告書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：円)

Table with 3 columns: 科目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). Rows include income (I. 収入の部) and expenses (II. 支出の部) with sub-items like 1. 会費収入, 2. 賛助金収入, etc.

2023年度「特定非営利活動に係る事業」会計収支予算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位：円)

Table with 3 columns: 科目 (Item), 金額 (Amount), 備考 (Remarks). Rows include income (I. 収入の部) and expenses (II. 支出の部) with sub-items like 1. 会費収入, 2. 賛助金収入, etc.

○「しろくまハウス」の室内環境の充実のため、優先順位の高い物から設置を検討します。

○治療に専念する子どもたちの希望に繋がる活動として、「そらぷちキッズキャンプ」を支援します。

○ホームページとSNSの充実を図ります。

二〇二三年度 第一回理事会開催

第一回理事会を開催し、先のとおり選任いたしました。



ファミリーハウス運動は、施設のオーナーさま、ホテルの社会貢献など多くのボランティアに支えられています。

Large decorative box containing '寄贈' (Donation) list, '助成金・ご寄付・ご協力' (Grants, Donations, Cooperation) list, and a closing message: 'ほか匿名の個人の皆様よりのご寄付、物品(自転車・おもちゃ・金券など)の寄贈を賜りました。心より御礼申し上げます。'

第23回

JHHHネットワーク会議開催

※JHHH：日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス
「病院近くのわが家」

二〇二三年二月四日(土)十三時より第二十三回JHHHネットワーク会議がオンライン(Zoom)にて開催されました。テーマは「コロナ禍で変わる患者家族滞在施設の機能」。

参加人数十六団体五十二名(個人含む)、北海道ファミリーハウスからは神戸副理事長と塩谷事務局長が参加しました。

報告では、二〇二〇年二月からの新型コロナウイルスの流行により、それぞれのファミリーハウスがクラスターの発生を抑えるため感染対策を徹底し、利用者さんの体調やメンタルへの配慮に取り組んできました。

また、活動の幅を広げる努力を続け、困難の中にこそできる工夫を凝らした取り組みとして、患児家族の宿泊施設としての機能の他にもミールサービス、HPを利用したバーチャル体験ツアー等が紹介されました。全国に同じ理念のもと活動している仲間がいるこ

とは、大きな安心と励みになると実感しました。

コロナ禍中の「しろくまハウス」の運営に当たっては、必要とする利用者さんがいる限り活動を休止とすることはしない、遠方から来札する患児家族の宿泊施設としての責任を重く考え、増室を断行しました。

新型コロナウイルス感染を発生させることなく過ごせたことに安堵するところも、病院での自粛は続いており、終息の日まで気を引き締めて活動が続けると報告しました。

北海道ファミリーハウス

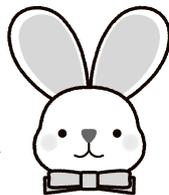
検索



ツイッターからも
情報を発信しています!



北海道ファミリーハウス
@hokkaido_fh



お知らせ

ファミリーハウスの運営効率化にともない、2023年8月ころまでに固定電話を廃止することといたします。

お問い合わせは下記番号へご連絡くださいますよう、よろしくお願いいたします。

TEL:080-9507-2389

しろくまハウスへの予約・お問い合わせは、

TEL:080-8625-9985

2022年度

しろくまハウス利用実績

感染症の発生、拡大により病棟の診療制限や営業自粛のホテルが多いことから滞在実績の集計を中止し、直営のしろくまハウスのみとしました。

しろくまハウス利用
延べ657泊

(2022.4.1~2023.3.31)

今年も! 子どもたちに クリスマスプレゼントを贈りました

クリスマスに病院で過ごす子ども達のために、その子ども達を笑顔にしたいと毎年クリスマスプレゼントをお届けしています。

今年は北大病院、手稲溪仁会病院、札幌北楡病院の3病院と「しろくまハウスの子ども達」に130個のクリスマスプレゼントを届けることが出来ました。

また、グラフィックデザイナー小川陽様のご協力により、2022年に「しろくまハウス」を利用されたご家族を中心に、「しろくまサンタさん」のポストカードを郵送しました。

同様に3病院にも「しろくまサンタさん」カードをプレゼントとともに届けました。

今年度ご寄贈頂いた企業・団体様、小川陽様、さらに札幌市共同募金会(赤い羽根募金)様から助成金を頂戴しましたこと、深く感謝申し上げます。

(株)オール
第一生命保険(株)
北海道信用金庫
北海道労働金庫
北海道電力労働組合
北海道骨髄バンク推進協会
北海道骨髄バンク推進協会札幌支部
(敬称略)



松本脩三前理事長の ご逝去を偲んで

当会の前理事長でありました松本脩三先生（北海道大学名誉教授）が二〇二三年二月一六日にご逝去されました。

当会は二〇〇〇年十一月に任意団体として発足し、松本先生には二代目理事長として二〇〇三年五月に就任いただき、NPO法人化（二〇〇七年四月）以降も初代理事長をお引き受けいただきました。

松本先生は北海道大学病院小児科の医師として海外でのファミリーハウスの歴史や運営にも精通し、日本でも「患者と家族の負担低減」を理想として二〇一一年五月までの長きにわたり活動を支えていただきました。

多大なる御恩に衷心より感謝の意を表すとともに、安らかな眠りにつかれますようお祈り申し上げます。

NPO法人設立総会
（左：松本脩三初代理事長）



運動の理念を語る松本脩三前理事長



サークル紹介 北海道リトルベビーサークル 「ゆきんこ」さん

北海道リトルベビーサークルゆきんこは、令和4年2月13日に設立しました。私たちは北海道全域で、2500gより小さく産まれた低出生体重のお子さんとそのご家族を対象に活動しています。現在76名の方が参加してくれています。

主な活動内容は、月2回のオンライン交流会、グループラインでの情報交換や交流、インスタグラムでの啓発、ホームページや公式ラインの運営、11月17日の世界早産児デーに合わせたイベントを開催しています。今年初めての対面交流会も企画しています。

去年北海道に要望書を提出し、たくさんの方のご協力のおかげで今年1月にほっかいどうリトルベビーハンドブック（以下LBH）が完成しました。LBHとは、低体重で生まれた小さな赤ちゃんのための母子手帳のサブブックのことです。母子手帳では、書くところがない成長曲線やいいえばかりの成長記録に落ち込むことが多くあります。LBHでは、赤ちゃんの細かい発達のステップを記載できるようになっています。他の子と比べることなく、我が子の成長を記録できます。実際に手にした方から感謝の言葉や書ける楽しみができたなどの嬉しいお言葉をいただいています。

お子さんが入院中の方も、退院して育児に悩みを抱えている方も一緒にお話しませんか？ ゆきんこには同じ境遇の仲間がいますよ！ みなさんが笑顔で過ごせますように☆



ハンドメイド作家 sako さん

病気の治療を頑張っている子どもたちの幸せのために手作りのコットンニット帽をプレゼントする活動をしています。有志の方から毛糸の寄付を募り、想いを込めて制作された帽子を希望した方にプレゼントしてきました。その活動はインスタグラムに掲載されています。

